

(2) 授業改善に向けて意識したいこと

「平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕結果報告」によると、小学校社会の課題のポイントが示されており、まとめると以下のようになります。

小学校社会の授業改善のポイント

- ① 社会的な思考力・判断力・表現力を高めるための指導と評価の工夫
 - ・ 単元を通して児童が思考できるような活動をどのように設定するか、計画的な指導が必要であること
 - ・ 1単位時間の授業の中で児童にどのような活動を仕組み、どのような思考方法「比較（比べる）・関連付け（つなげる）・総合（まとめる）」を基に思考をさせればよいかを教師が考え、意図的に問い掛けること
- ② 歴史的事象に関する知識を定着させるための指導の工夫
 - ・ 獲得した知識を活用し総合的に考えるような活動を単元の中に意図的に仕組むこと
 - ・ 人物の生きた時代の様子や歴史的背景などを具体的に理解（思考や表現の過程なども踏まえて学習内容を十分に分かりながら身に付けること）させること

「平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕結果報告」（平成27年2月佐賀県教育委員会）より抜粋

これらのポイントを取り入れて、授業づくりにおいて「教師が意識すること」を視点にして整理し直すと、「①単元を通して考え、理解させること」「②児童の主体的な学びにすること」を意識する必要があると考えます。

① 単元を通して考え、理解させる

社会科の授業では、「単元を通して考え、理解させる」という長いスパンの指導計画が大切になります。計画的な指導をするためには、児童が単元を通して何について考え、何を理解するのかを明確にしておく必要があります。また、児童がどのようにして考え、理解するのかという学習の過程を見通しておく必要があります。つまり、単元の目標とその目標の達成を意識した指導計画が重要になります。次の2点を確認しながら、指導計画を見直しましょう。

見直しの視点1：単元の目標が具体的になっていますか？

単元の目標は、児童が、どんな内容について、どのようにして調べることで、どのようなことが分かり、どのようなことを考えるようにするのかを具体的に設定しましょう。例えば、以下の4つの事項が埋まるように設定してみましょう。小学校学習指導要領解説社会編の第3章には、4つの事項が埋まるように内容が示されています。

単元の目標設定文例

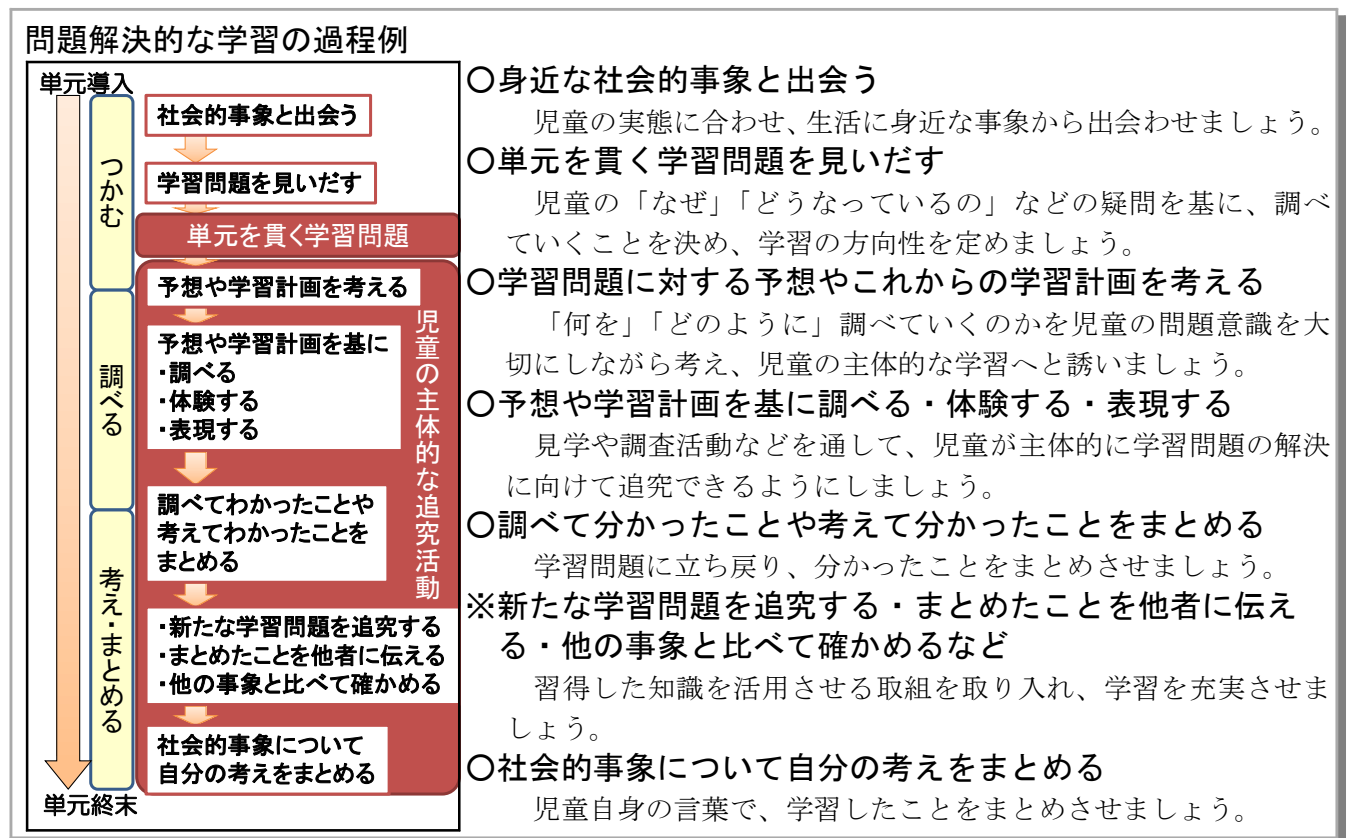
- ・ 「(①調べて分かる社会の内容) について、(②どのような調べ方) を通して調べ、(③考えて分かる社会の内容) を (④どのような考え方を) して) 考えるようにする。」
- ・ 「○○に関心をもち、○○について、(②どのような調べ方) を活用して調べ、(①調べて分かる社会の内容) が分かり、(④どのような考え方を) して) (③考えて分かる社会の内容) を考えるようにする。」

※単元で取り上げる内容について、「調べて分かる内容」と「調べたことから考えて分かる内容」とに分けてみると考えさせる内容が見えてきます。このようにして、児童が単元を通して社会的事象の意味を考えることができるように単元の目標を設定しましょう。

見直しの視点2：問題解決的な学習になっていますか？

小学校社会科には、習得した知識や技能を活用して学習問題を追究・解決する問題解決的な学習の充実が求められています。（小学校学習指導要領解説社会編 平成20年8月 p.5）

獲得した知識を活用し総合的に考えるような活動を単元の中に意図的に仕組むには、単元を通して問題解決的な学習になっていることが大切だと考えます。その際、単元内に「児童が単元を通して学習する問題（単元を貫く学習問題）」と「児童による問題解決（児童の主体的な追究活動）」があるようにすることを意識しましょう。



② 児童の主体的な学びにする

児童に調べさせる活動や知識を身に付けさせることを重視するあまり、児童にとって受動的な学習になってしまったり、問題解決的な学習が形骸化したりしていませんか。本研究では、問題解決的な学習を充実させるためには、児童の主体的な学びになっていることが大切だと考えます。児童にとって、「なぜ調べるのか」「なぜまとめるのか」という学習の目的が明確になっておくことが大切であり、単元を通して児童の主体的な学びになるように意識しましょう。そのために、単元を貫く学習問題を児童と共につくり、問題解決に向けての問題意識（何とかして解決したいという学習意欲）をもたせることで、単元を通して児童の思考を誘導することが大切だと考えます。

見直しの視点3：授業では、児童と共に単元を貫く学習問題づくりをしていますか？

学習問題を教師が一方的に示していませんか。単元を貫く学習問題は、児童にとって学習の目的となります。単元の目標を達成するためには、学習問題が児童にとって「解決したい問題」になることが大切であり、児童の「なぜなんだろう」「どのようになっているんだろう」という疑問やもっと調べたいことを教師が意図的に引き出し、学習問題を共につくっていく必要があると考えます。

見直しの視点4：「考え・まとめる」過程だけで児童に考えさせようと思っていないませんか？

学習問題づくりの中にも、児童の社会的な思考があります。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」（平成23年11月国立教育政策研究所）によると、社会科の特性に応じた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」及びその趣旨について以下のように示されています。

社会的な思考・判断・表現

社会的な事象から学習問題を見いだして追究し、社会的な事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」p.23（平成23年11月国立教育政策研究所）

このことから、学習問題づくりも児童に思考させる場であり、評価する必要があります。つまり、学習問題は児童に考えさせるべきことです。

見直しの視点5：児童に考えさせるべきことを教師が説明していませんか？

児童が調べて分かることは、児童にとっても表現しやすいものです。しかし、児童が考えて分かることは、以下のような3つの思考方法を通して例のように表現されます。

意識しておきたい思考方法

- ・いくつかの情報から分かったことを比べて考える（比較）。
児童の発言例「…よりも～」 「同じところは～」 「…が違う」
- ・いくつかの情報をつなげて予想したり、理由を考えたりする（関連付け）。
児童の発言例「…だから～」 「なぜかという～」 「それは～」 「ということは～」
- ・いくつかの情報をまとめる（総合）。
児童の発言例「一言で言うと」 「つまり～」

児童に「考えさせるべきこと」を「言わせたいこと」「書かせたいこと」と捉え、そのための手立てを考えていきましょう。

以上のことを意識して授業改善に取り組みましょう。取り入れたい授業改善の手立てを次項で紹介します。

引用文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成20年8月

- ・ 国立教育政策研究所 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】』
平成23年11月
- ・ 佐賀県教育委員会 『平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告』 平成27年2月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H26_12_Webreport_center/documents/h26_12_ikkatu.pdf

参考資料

- ・ 佐賀県教育センター 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 平成26年3月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm
- ・ 澤井陽介 『澤井陽介の社会科のデザイン』 2015年 東洋館出版社
- ・ 澤井陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK』 2015年 明治図書